

神の国の体験(ルカ 9:28-36)

私たちは信者なのに、自分の限界にとらわれて悩むときがあります。能力の限界があり、知識にも限界があります。また、私たちは肉体を持っているので、時間空間に制限される限界を持っています。そして、信者なのに過去の傷、今現在のことでの心配すること、また未来の不安にとらわれてダウンしてしまうときもしばしばあります。なぜ信者なのに限界にとらわれて、また心配にとらわれるようになるのでしょうか。私たちは、それは人間だから当たり前で仕方ないのではないかと思うように洗脳されているのです。信者なのにそのように流れてしまいます。しかし、信者でありながら限界にとらわれて、過去と今現在、未来の心配にとらわれることは、実は神様を離れていた罪人の特徴なのです。神を失った結果、生まれた人間から見られる性質というものです。しかし、私たちはキリストによって神様と出会いました。にもかかわらず、神様から離れたときの罪人としてのやぐらがそのまま残っているので、私たちは限界に悩まされ、過去、現在、未来にとらわれて混乱してしまうようになります。なので聖書は、信者の私たちにそこを抜け出して、本当にこの世を生かすための輝く勝利者、証人となるために神の国を体験しなさいと勧めています。言葉を変えますと、私たちの内側に暗闇のやぐらがそのまま残っているので、それに対する人は甘い言葉や世の論理、愛情等々では碎かれません。地上のものに対しては、サタンによって作られたものに対しては、特に心の傷というものは、御座の祝福が臨まれ、具体的に現れることで碎かれて、そして癒されて証人としてこれから用いされることになるわけです。本当にそうなれるのかと思うかもしれません。あまりにも生まれながら長い間、限界というものは当たり前で、心配することは仕がないと慣れているから、そこを碎いて突破しないといけません。パウロは言いました。刑務所の中で、その状況の限界にとらわれることなく、私を強くしてくださる方にあってできないことは何もない。刑務所であろうが奴隸であろうが、死の影の谷を歩いていようが私には構いませんということが可能なのです。信者だけに許されている特権であり、力であり、祝福なのです。なのに残念ながら「仕方がないんじゃないの？人間だから」ということに洗脳されていて、信者としての特別な祝福、特別な能力を諦めて、味わうことができないでいるのではないでしょうか。イエス様は最後におっしゃいました。「ローマの植民地なので、私たちは乞食のような者であり、今の状況は厳しくて何もできない状況です」と言ったときに、それは救われる前にいうことであって、あなたがたは救われたので知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれると、その限界をすべて超えて、地の果てにまでわたしの証人となります。5000 未伝道種族に至るまで彼らを生かす力強い光り輝く証人となれるとおっしゃいました、その通りになりました。なのになぜ私たちは、それは特別な話のように思って、自分とは関係ないと思うのでしょうか。今日の聖書を通して、その限界を超えて征服者となり、勝利者となるための神の国を体験する奥義を教えられたいと思います。

今日の聖書の箇所の前に、27 節でこのようにイエスが言われています。「まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます」。それから、変化の山に連れていかされました。つまり、死ぬ前にこの変化の山で起きていること、経験していることは、神の国を見ることなんだという意味なのです。それがどういう内容だったのか。限界を超えて勝利者になるための神の国を体験することは何なのか。私たちにさまざまな限界がありますが、それが何一つ問題にならないし、言い訳にもなれない、その神の国を体験するすばらしい祝福は何なのか。

1. イエス様がキリストの榮光に輝くこと。(29-31)

第一です。それは今日の箇所から私たちが一緒に見たように、私たちが信じているイエス様がキリストの榮光に輝くようになること、それが神の国です。

29 節から 31 節にそのことが詳細に紹介されています。私が信じているイエス様が、もしかしてバプテスマのヨハネのように、エリヤのように、そういうカラーではないでしょうか。そこに神の国はありません。しかし、イエス様を信じます。それで教会に通いながらある日、そのイエス様が私の内側で榮光に輝くキリストとして現れるようになりました。時に暗闇が碎かれて、皆さんの内側が変えられて、何より考え方方が変わることになります。それを神の国と言います。ぜひこのことを契約として握って、自分の内側

で、自分が信じているイエス様が、キリストとして栄光に輝くようになることを祈っていただきたいと思います。イエス様はキリストなのです。なのに、キリストとして輝いていないのです。だから、サタンのやぐらが、暗闇のやぐらが私たちの考えを捕らえて、昔のままに縛ってしまうわけです。そうするとそれが脳に刻印されて、自分の状態、生活、人生の歩み、そこにそのまま全部現れるのです。体にも現れます。なので、今日の礼拝を期に、そのような人生を終わりにしましょう。イエス様がキリストとして輝くようになることを願いましょう。

1) 御衣は白く光り輝いた

御衣は白く光り輝いたと書いてあるのは、そういう意味なのです。イエス様はキリストなのに、私たちのために人間の体を取って現れたので、普通に人間として見えるわけです。何が違うのかと思うかもしれません。なので、キリストより世の中のヒーローや英雄の方がよっぽど偉く見えるかもしれません。しかし、イエス様は人間に見えるけれど、イエス様は神の御子キリストなんだ。それを表すために魅衣が白く光輝くことになりました。

2) モーセとエリヤ(旧約)の希望

そして、イエス様がキリストとして輝くようになる神の国とは何なのかというと、そこにモーセとエリヤが現われました。モーセとエリヤは、旧約を象徴するわけです。旧約のすべての歴史、すべての聖書、すべての旧約の約束などを全部表す象徴的なものがモーセとエリヤなのです。そのモーセとエリヤがそこに現れたということは、イエス様が旧約のすべての契約の成就であり、旧約のすべての歴史の終わりであり、旧約のすべてのイスラエルの人々が待ち望んでいた希望そのものなんだという意味なのです。旧約の歴史のすべては、このイエス様が来られることのために、キリストが来られて救いの働きを全うするためにはあったものなんだ。そのための道具だったということが明らかにされることが、イエス様がキリストとして輝くことであり、神の国というわけです。結論で申し上げますけれども、私たちにも過去があります。その過去が今のモーセとエリヤのようにちゃんと位置づけされて、そこでキリストが輝くようにならないといけないのに、未だに傷のままなのです。神の国がその過去に臨まれていないわけです。神の国を体験しましょう。

3) 創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 7:14、ヨハネ 1:1, 14

つまり、イエス様は創世記 3:15 で預言されていた悪魔の頭を踏み碎いて勝利なさるキリストその方なんだということが明らかにされました。光り輝くようになりました。出エジプト 3:18、私たちの罪のために身代わりとして、十字架で犠牲のいけにえになることで、罪と地獄、呪いのすべてを完璧に解決されるキリストその方だったということが明らかにされること、それが神の国です。そして、このすべてが神様を離れた結果なので、人間の力では神様を知ることも近づくことも会うこともできないので、この神様とまた出会うためのいのちの道となられたキリストなんだ。インマヌエルなどと。イザヤ 7:14 に預言されていたその方なんですよということが明らかに現れることを神の国と言います。それでヨハネ 1:1 にあるように「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった」。14 節「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」ということが明確に証明されることなのです。イエス様はことばそのものであり、創造の神様であり、私たちのために人間の体をもってこの世に来られた神様ご自身であるということが証明される場面です。白く光り輝いていたと。つまり、言葉を変えますと、イエス様がキリストとして輝き、明らかにされるというのは、誰も解決できないこの世界の人間の靈的な問題を解決するためにこの世に来られた神様ご自身などと。そのように輝かないといけません。そうでないと私たちは「イエス様を信じます。教会に通います」と言いながらも、バプテスマのヨハネ、エリヤ、エレミヤのようにイエス様を信じるのです。そうすると教会に行く理由がなくなるので、教会から離れていくようになります。離れるときには、イエス様を信じませんとは言わない。誰かが気に食わなくて。教会のシステムがああだこうだいろいろな口実を取り上げます。あれが悪魔のしわざなのです。キリストが輝かないから。イエス様が実際にキリストとして輝いたことがないから教会から離れるわけです。勘違いしないように。ごまかさないように。

4) 十字架と復活

なので、このことのためにイエス様は十字架で犠牲になり、すべてを完了なさって、3日目に死の力を打ち破って復活なさる方なのです。そのようにちゃんと示されて、そのように明らかにされることがイエスがキリストとして輝くことなのです。31節にモーセとエリヤが現れて、栄光に輝いているイエス様とこの話をしていました。十字架で死なれて復活することを話し合っていたわけです。これが神の国です。ペテロと3人の弟子が、これを最初からしっかり見てれば、その栄光に圧倒されて、今までのやぐらが碎かれて癒されたはずなのに、サタンも必死なのです。

5) 眠くてたまらない

だから今まで申し上げました神の国が現れ、イエス様がキリストとして栄光に輝く、また十字架の奥義が解き明かされる場面で眠くてたまらな居眠りしたのです。それを全部パスしてしまいました。それからハツと目覚めた時にその光景を見たのです。十字架の話などは聞いていません。その光景を見てびっくりして、イエス様、すばらしいです。ここに三つの宿を建てましょう。一つはイエス様のために、一つはエリヤ、一つはモーセのために。自分で何を言っているかわからないと。神の国を正しく体験しないとこのようになります。サタンは今でも教会に通っている私たちが神の国を体験すれば、私たちが変わり、私たちと関わっている現場が変わり、世界が変わることがわかっているので、この体験ができないように眠くてたまらない状態にしてしまうのです。不思議なことなのです。ちょうど神の国の話をするときには眠くなるのです。他の話のときは目がぱっちりなのに。一つはモーセのために、エリヤのために、イエス様のためにと言っているのはなぜなのでしょうか。旧約のもの、以前のものもそのまま持っていてこだわっているわけです。

6) サタンのやぐらが(33)

つまり、サタンのやぐらがペテロの内側にそのまま未だに残っているのです。神の国を体験しないといけません。信仰生活は理論ではありません。理屈ではありません。今も復活なさったイエス様がキリストして働いていらっしゃるのです。神の国を体験させていらっしゃるのです。聖霊が臨まれると、あなたがたは力を得て、それが今もそのまま行われているのです。ただ眠くてたまらないからその祝福と遠ざかってしまうのです。そうすると仕方がなく、私は良い信者、良い信仰生活をするつもりなのですが、サタンのやぐらがそのまま残っているので思い通りになりません。私たちが悪いからではなくて、サタンが建てた、植え付けているサタンのやぐらがそのまま残っているので、いま目の前でイエス様の栄光を見たにもかかわらず、その奥義を見るときに眠くてたまらない状態なのです。ペテロはサタンのやぐらに振り回されているのです。何がモーセのために、何がエリヤのためにでしょうか。なぜ皆さんの過去の栄光に、過去のさまざまなことにこだわって振り回されるのでしょうか。それはサタンのやぐらなのです。いくらすばらしい内容であっても、いくらすばらしい経験であっても、神を離れて神の国とは関係ない、キリストを知らないときのものなので、どこから生まれて、どこから与えられたものでしょうか。冷静に素直に考えなければいけません。何がそんなに自慢で誇りなのでしょうか。何がそんなに傷なんでしょうか。なぜそういった過去に振り回されるのでしょうか。ペテロと一緒にです。そのときに雲がわき起こって彼を包んで雲が消えたときに、モーセとエリヤは消えてなくなり、そこにイエス様だけが残ったと。なぜならモーセとエリヤはキリストではありません。キリストのためのしもべだったのです。アブラハムもダビデも。皆様の過去のどのようなこともキリストのための材料なのです。それほどキリストは絶対価値なのです。それに目覚めることを神の国と言います。イエス様がキリストの栄光に輝くようになれば二番目です。

2. Only 絶対イエスで結論を出すこと。(36)

そのイエス様はこれからイエス様ではなくて、Only イエス、絶対イエスとして結論を出すことになります。それを神の国と言います。

皆さんの内側に神の国が臨まれたときに、その結果、現れるものがこのような内容です。イエスだけがそこに残っていた。エリヤも消えてなくなり、今まで私たちがこだわっていた、とらわれていて縛られていた、また自慢にしていたすべてが消えてなくなり、イエスだけが私の心に、私の信仰に残っている。そういうことを神の国と言います。信者の葛藤、悩みは、このような神の国を体験していないからあるものな

のです。みな知らないから別に理由があるかのようにずっとさまよい続けるわけです。イエス様がキリストの栄光に輝くようになりました。自分の内側で。牧師の説教の中でもそうでしょうけれども、自分の内側で。

1) 人生の解答

その時にイエス様だけが自分の人生の解答になります。今まで自分の人生に対してこだわっていたさまざまなものから自由になり、私の人生の答えは、私の人生の解答はイエス様だけなんだと。

2) 人生の幸せ

自分の人生の幸せは、家族でもお金でも名誉でも成功でもなく、環境でもなく、イエスが私の幸せなんだと。Only イエスなのです。幸せがイエスでないから人につまずき、金につまずきます。それがいらないという意味ではありませんけれども、それは幸せの道具でも基準でもありません。信者がそこが変わらないと、そこが変わることを神の国と言います。よく聞いてみると、自分で信仰においてだいぶ甘いなという感じがしませんか。これはプレッシャーではありません。自負なのです。世界中、誰が自分の人生の解答は、自分の人生の幸せはイエスですよという人がいるのでしょうか。みな騙されています。

3) 人生の理由

そして、これから自分が生きる理由、自分が生かされている理由、自分が日本で日本人として生まれて、日本で暮らすようになった理由、それもイエスです。なぜならイエスだけがキリストだから。世の中に必要なのはキリストの他にありません。絶対ありません。なので、この結論を出すことになります。つまり、是々非々がどうなのかなどを超えて、イエスが答えなのです。誰かのせい、何かのせい、間違いなくそれが事実かもしれません。関係なく、そういうことに構うことなく、それを超えてイエスが答えなのです。イエスが幸せなのです。わかりますか。それが Only 絶対なのです。失敗もあるかもしれません。ミスを犯すこともあるかもしれません。それを合理化するつもりはありませんが、にもかかわらずイエスが答えなのです。イエスが幸せです。イエスを見失うことはありません。いくら失敗したとしても。さまざまな苦しみがあります。苦難もやってきます。その苦しみ、苦難などを超えてイエスが解答であり、イエスが幸せであり、イエスが理由なのです。いま皆さんの現実にさまざまな問題があるかもしれません。いろいろな状況に囲まれているかもしれません。にもかかわらず、だからといって答えが変わらわけではありません。解答はイエスだけなのです。幸せもイエスだけです。そういうすべてを超えていります。そのような結論を出すことになります。いつでしょうか。イエスが自分の内側でキリストとして本当に輝くようになりましたとき。十年ぶりに通訳の仕事をしたからなのかわかりませんが舌がよく回りません。でも舌が回らなくても答えはイエスです。幸せはイエス。その結論が自分の内側から、本当に心から出せることになること、それが自分の内側に神の国が臨まれたというわけです。その後、かつこうつけるためではなくて、本当にパウロの告白が自分の告白になります。

4) ピリピ 3:8

今までこだわっていたもの、自慢にしていたもの、誇りにしていたもの、すがっていたもの、すべてはちりあくたなんだと宣言できることを神の国と言います。イエス・キリストだけがそこに残った。こういう神の国が私たちの内側に臨まれました。

5) みことばが聞こえてくる

それを体験したとき、そこに現われる祝福が何かというと、35 節です。「すると雲の中から言う声がした。「これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け」。このときから神のみことばが正しく聞こえてくるようになります。その時まではみことばを聞いていても聞いて聖書を読んでいても、正しく神様の御声として聞こえないのです。サタンのやぐらのままなのです。イエスがキリストとして輝き、だから Only、絶対イエスを告白してサタンのやぐらが碎かれ、神のやぐらが建つようになったときに、みことばが素直に聞こえてきます。これが幸いなのです。これを祝福と言います。急に宝くじに当たることが祝福ではなくて、みことばが聞こえてくるのです。聖書を見ると、聖書が今までとは違って見えるのです。キリストを中心に見えるのです。みことばが聞こえてくるようになること、これが神の国です。神の国は、神様ご自

身が統治なさるという意味があります。その統治は何をもってなさるかというと、みことばをもってなさるのです。だからみことばがすべてなのです。そのみことばが聞こえてこない限りは、ペテロのように眠くてたまらないのです。みことばがすんなりと神様の御声として聞こえてくる祝福を祈りたいと思います。

まとめましょう。なので、今日のメッセージを握って、私が信じているイエス様はどういう方なのかと素直に問い合わせよう。それでイエス様が本当にキリストなのか、違うのか、素直に考えて、違うかどうかがどうやって分かるかというと、皆さんの祈りの内容、願いを見ればわかります。何を願っていらっしゃるのでしょうか。だから、バプテスマのヨハネのような方になってしまったり、エリヤのような超能力的な方になってしまうのです。だからそれを素直に聞いて、イエス様が私の中でキリストとして輝いて Only 絶対イエスの結論を出せるように祈りましょう。自分自身を省みて、自分のイエス様への信仰の色を省みて。

そして、それが具体的に私の過去、現在、未来においてキリストが輝くように。誰にでも過去があり、今現在があるのではないでしょうか。これから未来はみな待つのです。でもそこにキリストがないのです。自分勝手に思っています。暗闇のままなのです。虐待を受けた経験があるでしょうか。いじめられた経験があるでしょうか。人に言えない大きな過ちを犯したのでしょうか。そのままであればサタンの餌食なのです。キリストがそのために来られたから。自分がどんな過去でも、そのすべてはこの絶対価値、唯一の答え、いのちであるキリストに会うための旅程だったと告白して突っ走りましょう。これはキリストが過去において輝くことなのです。私は皆さんに全部は言えない、そういう内容だらけなのです。それに一つも囚われることなどありません。それはキリストに出会うための旅程でした。神様は世界の基が置かれる前から、私を救われることを予定していらっしゃったので、その過去の失敗もミスも過ちもすべてご存知なのです。神の救いのための主権の中で許されたものなんです。合理化とは違います。キリストが輝くように。それで、過去に対しての無限の執着を全部捨てて過去に縛られないように。過去は土台であるだけです。そして、今現在の現実に対して、それは私とともにおられるキリストを味わうための材料として受け止めましょう。それで現実のさまざまのことの中でキリストが輝くように。なので、現実のさまざまの状況を通してキリストを味わうということは、キリストで終わったという宣言と共に、御座の祝福に入るためのチャンスであり、神の計画を問い合わせよう。それが今、現実においてキリストが輝くことなのです。でも皆さん、現実の良いことがあれば嬉しい。少し悪いことがあれば悲しくて。いつもそうでしょう。それはサタンのやぐらです。私たちが見たときに悲しいこと、悪いこと、良いことすべてが神の計画にあるものなのです。なぜならイエスがキリストだからです。キリストがすべて完了なさりました。すべての問題が終わりました。なのに問題がある？それは問題ではありません。それを味わわないといけません。キリストが現在に輝くように。そして未来に対して不安がいっぱいあって、こうしよう、ああしようといろいろな計画があるかもしれません。未来はこの証拠を持ってキリストをお証しして、エルサレムから皆さんの現場から 5000 未伝道種族に至るまでキリストをお証しするために用意されている時間なのです。未来に対して不安に思わないでください。その未来に向けて、神様が私をどのように用いられるつもりなのかということを祈ることです。それをミッションといいます。必ずひとりひとりにありますので。大きな目的はキリストをお証しすることです。世の中にキリスト以外には答えも希望もありませんので。ただ、そのキリストをお証しするために、私にどのような未来を準備しているのでしょうかと祈ってください。特にレムナントは祈らないんですね。不安で、どこにどういう就職すればいいのか。できるかどうか自分なりに考えていて、いまだに自分が神なのです。私は十字架とともに死んだと。神様が必ず私を通してキリストをお証しして、ほかのところでもキリストの栄光が輝くようにという計画を持って召されました。それが今回の集会のテーマでしょう。見張り人としてして召されたので、どの分野でどこでどういうふうにそれをするつもりなのでしょうかと祈っていればいいのです。すぐに何かが示されなくても祈ってください。心配しないで。でも先に心配が走るからその祈りが祈りにならないのです。未来にキリストが輝くように。イスラエルの過去、モーセとエリヤ、そこでキリストが輝くようになりました。今日の聖書はそのお話です。ぜひ過去、現在、未来、皆さん的人生すべてにおいてキリストが輝く神の国が臨まれ、体験できることを祈りたいと思います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。神の計り知れない愛と恵みによって、私たちは救われて神の子どもなのにサタンのやぐらに振り回されて、信仰の道、勝利の道が阻まれていることを告白します。どうかそのために約束された神の国を体験するように。イエスがキリストとして輝き、Only 絶対イエスとして結論を出して、そのキリストの栄光が過去、現在、未来に輝き、5000 未伝道種族までそのビジョンをしっかり見るようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。